

高1探究(総合) 授業参観報告

日時	4/17〔火〕2限	学年・組	高1-5
担当	K先生・O先生	場所	HR教室
今年度から始まった「探究（総合的な探究の時間）」。 今年の高1から、高1・高2で週1時間ずつ行います。 第1回目は、オリエンテーションです。 最初に、探究担当（この授業では小本先生）から、「①探究という授業とは」「②求められる力」「③授業の形式」「④評価」「⑤この授業で、やってはいけないこと」について説明がありました。 その内容は… ①答えがはっきりしない問いに対して考える／社会に存在する「困りごと」の解決方法を考える／大学での学びにつなげる ②考える力／考えることを諦めない力／他人の意見を聞く力 ③グループワークが基本／発表もある ④伸ばしてもらいたい力を示した「自己評価シート」から、自分が伸ばしたい能力をいくつか選び、目標にする ⑤思考停止／他人の意見の否定／失敗を恐れる 動画（使用教材である「ソーシャルチェンジ」を制作した会社が作った3分ほどのもの）を観た後、アイスブレイク（初対面の人同士が緊張をときほぐすための手法）として「お題」についての答えを、各グループ1人40秒で発表しました。 このクラスでのお題は、「自分を動物に例えたら何と何のハイブリッドか？また、そう思った理由は？」徐々に緊張もほぐれ、盛り上がっていききました。		 作業や議論，思考には時間を切ったりします  だんだん皆の表情がほぐれてきました  お互いを知るためのアイスブレイク	

【感想等】今回はオリエンテーションでしたが、次回からは生徒中心の活動が1年間続きます。高校では、あまり行われなかった授業形態で、今後の展開が楽しみです。土1限(4・6組)・2限(2・3組)、火2限(1・5組)・5限(7・8・9組)に行われていますので、ぜひご参観ください。 [T.T]

☆今回の授業を約3分に編集したダイジェスト動画(!)を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「O417 高1-5 探究」

『大学入学共通テスト研究会』に行ってきました 研修（出張）報告

研修名	2018 年 4 月『大学入学共通テスト研究会』		主催	代々木ゼミナール	
日時	4/21〔土〕	会場	代々木ゼミナール大阪南校	報告者	T.T
内容	①副理事長の挨拶と新制度入試のアウトライン ②出題傾向の変化～試行調査と個別入試問題の分析を通して～ ③大学入学共通テスト入試プレ（2017 年 3 月に代ゼミが旧中3対象に実施）結果分析				

【報告】

①副理事長の挨拶と新制度入試のアウトライン

◇前半の高宮副理事長の挨拶がなかなか興味深い内容でした。

- ・2018 センター地理の「ムーミン問題」がなぜ撤回されなかったか
→新テストに向けてのチャレンジという位置づけであり、高得点者ほど正答率が高かったため
；**身近な話題に関するディスカッションを授業で行うのも有効**ではとの提案
- ・試行問題を見る限り、新傾向の問題は2～3割であり、**基礎学力定着も重要**
；「思考力」といいながら「読解力」を問う問題も多く、「自己採点しやすい問題」が結果的に多い
- ・英語民間試験について
 - i) 東大などは「読む」50点「話す」50点の学生より、「読む」95点「話す」5点の学生がほしい
→民間試験採用せず、文部科学省と対立
 - ii) **民間試験を高3で2回受験となれば、どんなふう受験させるか**
A；生徒に任せる B；力の着いた秋以降に2種類受験 C；夏休みを挟んで1種類を2回受験
→高宮氏としては、Cを推奨。**本校でも情報収集しつつ議論が必要**と感じました。

◇「新制度入試のアウトライン」について

- ・詳しい資料は、進路指導（N先生）、高1（K先生）にも渡しています。
→英語の部分についてのみ、別紙添付しておきますので、**「課題」について情報共有をお願いします。**

②試行調査と個別入試問題の各教科分析

◇各教科 15～20 分の短時間ですが、他教科の教員にも分かるような説明で、大変興味深かったです。

◇新テストだけでなく、個別試験（私大含）での新傾向問題も取り上げられていました。

→以下、他教科を含め、個人的目線で印象に残った点をレポートします。

◇**各教科主任に、もらってきた資料をお渡ししていますので、ご活用ください。**

◇国語

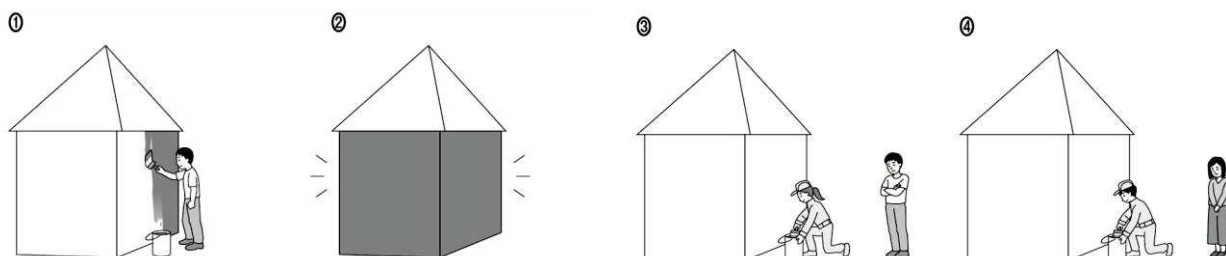
- ・委員会活動、生徒同士の対話、調べ学習など、「**アクティブ・ラーニング**」の場面を想定した出題が多い
→他教科でもそうでしょうが、**総合学習等での活動は有効**となるのではと感じました。
- ・第1問（記述問題）は、参照しなければならない情報が多い（地歴公民より多い気がします）。
→他教科のことについても関心を高める必要性を感じました。
- ・第5問（漢詩）では、「古くから日本人が漢詩文に親しみ、自らの教養の基礎としてきた」という**一般的な知識（本文からは読み取れないこと）を要求される問題**が出題
- ・**個別試験でも新傾向が始まっている**
→阪大で会話文形式の問題。しかも「モヤモヤしてきちゃ」うのはなぜかを問う問題（！）
→橋で「文章の内容から論理的に推定しなさい」など

◇数学

- ・講師の解釈では、この問題は「**授業方法への提案**」が含まれた「**メッセージ問題**」
- ・ⅠAの第1問では、**グラフ表示ソフト**（フリーソフト GeoGebra?）を使った問題
→初見でも解ける可能性はありますが、一度使っていると違うのだろーと思われま
- ・ⅠAの第2問（2次関数）では文化祭のTシャツ、第3問（確率）では高速道路の渋滞など、**実生活に即した設問**
→リアリティを追求しすぎて、扱う数が大きくなっていたりしますが…。
- ・ⅡBでは**誤答指摘の問題**（2015 兵庫県立大の個別試験でも）
→授業の場面を想定？

◇英語

- ・講師の解釈では、「英語を学ぶ」→「**英語で作業する**」（対象から手段へ）**という方向性**が示された問題
- ・発音・アクセント、文法・語法、語句整序などがなくなる
- ・**分量の多さは顕著**
→「他教科の内容を英語で読ませる訓練なども有効では」と思いました。
- ・**事実と意見を区別させる問題**なども
- ・「The man is going to have his house painted」の状態を選ばせるリスニング問題
→**完璧に聞き取れたとしても間違**う生徒がけっこういるのでは？



- ・講師の「まとめ」（個別試験を含む）
(1) **読解問題の2極化**
；「大意把握・情報処理」（共通テスト・民間試験）／「構文把握・読解」（国公立私大個別試験）
(2) 発信力の重視；**平易な英語を用いて自分の意見を論理的に構成する力・伝える力**

《裏へ》

◇理科

- ・**日常現象との関わり重視**（抽象と具体）
→単振り子で「ブランコ」、高分子化合物で「のり」、生物の窒素同化で「身近で誰でもできる実験」
- ・**他科目(教科)との融合問題**
→物理で「化学の原子量の取り扱いに慣れていると有利な問題」など
- ・個別では、2016 名大生物の「(問題文に示された) 実験室にあるものを用いて実験を提案する問題」が新傾向

◇地歴公民

- ・**知識がなくても解ける問題の登場**（一方でより正確な知識が求められる問題も）
- ・ラディカルに変わった「日本史」「現代社会」、元々思考力重視でありあまり変わらない「地理」、変えようという意識は見られるが表層的な変化の「世界史」
- ・日本史で**自分の支持する考え方を二択で選ばせ、その理由を四択で選ばせる**組み合わせ問題
→2018 名大でも鉄砲伝来の際に来航したのは中国船かポルトガル船かを資料中の根拠とともに答える問題
- ・個別では、東大世界史大論述で「女性解放史」；「**ジェンダー**」と「**グローバル・ヒストリー**」が今の流行

③大学入学共通テスト入試プレ（2017 年 3 月に代ゼミが旧中 3 対象に実施）結果分析

◇宣伝的な要素もあるかと思いましたが、相関関係の調査など、興味深い内容もあったので要点のみ紹介します。ちなみに英語に関しては、共通テストの試行調査が2月であったため、それを見ずに作った問題であるということです。

◇英国数の各教科主任に問題と分析報告、進路指導(N 先生)と中3(M 先生)に問題を渡していますので、ご活用ください。

◇英語について

- ・**スピーキングテストを特製タブレットで行った**というのが興味深いです。
- ・**スピーキングとの相関関係**は、以下の通りです。[] 内は相関係数(0.7 以上で強い相関)
文法・語彙+発音問題 [0.85] > 英語全体(筆記・リスニング) [0.72] > リスニング [0.55]
→リスニングがもう少し相関があるかと思ったのですが、あまりないですね。
- ・スピーキングの対策として「**メモを取る力**」(**重要な情報を判別し、まとめる力**)が**重要**とのことでした
- ・スピーキングの採点基準は、一つの例ということだと思いますが、参考になるのではないのでしょうか。

◇数学について

- ・高 1 分野を含めて出題
- ・記述式問題では、**言葉の説明が少ない答案**が多いとか、採点基準の確立が難しいという話がありました。

◇国語について

- ・漢文は出題せず
- ・数学同様、誤答の例や採点の難しさ、今後の対策の話などが興味深かったです。

◇全体について

- ・中高一貫生と高校受験生の比較では、英・数は中高一貫生の方が平均点が高く、国語と英語のスピーキングは同程度という結果でした。英・数は範囲の問題が大きいと思いますが、**スピーキングに関しては、中高一貫校の中学校でも、まだあまり対策はできていない**ということでしょうか。
- ・ちなみに、これは誤差の範囲かもしれませんが、英国数でいうと、**英数の相関が一番高い**という結果でした。

【感想など】

◇入試問題には、授業や総合学習のヒントがある

→問題の設定が「アクティブ・ラーニング」そのものになっていることが多いです。

◇(大学)入試問題には(中高)入試問題のヒントがある

→本校入試では、どうしても採点のことを考慮しなければなりません、「採点しやすい良問」のヒントも新傾向の入試にはたくさんあります。

◇教科内で話をしましょう

→入試問題の研究は負担にもなりますが、多人数ですれば何分の1かになります。教科会等で、互いのアイデアや実践を共有できるといいですね。

◇学年等、教科の枠を越えて取り組んでいきましょう

→「資料・データの利用」や、「長い文章を厳密にではなく大意を把握する形で読んでいく」、「自分の考えを筋道立てて表現する」といったことは、すべての教科で必要になってくる能力です。他教科の人の授業を見に行ったり、コミュニケーションを取ったりすることはとても大切だと思います。

◇情報共有しましょう

→今回は、研究開発部長という立場から、このような長い報告を作りましたが、みなさんの場合は、「もらったレジュメに手書き文字を加えたもの」といった簡単なものでもいいと思いますし、教科会や学年会において短時間で報告するというのもいいと思います。情報を得てきた場合には、必ず教科や学年・分掌で共有をお願いします。

『校内研究担当者研修』に行ってきました 研修（出張）報告

研修名	平成 30 年度 校内研究担当者研修			主催	大阪府教育センター	
日時	4/27〔金〕	会場	大阪府教育センター		報告者	T.T
内容	校内研究の意義と担当者の役割 研究授業の充実に向けて 【講義・演習】					

【報告】

①はじめに

- ◇この研修は、主に公立の小中学校の校内研究担当教員向のものなのですが、本校研究開発部としても参考になることもあるかと考え、参加しました。
- ◇詳細については、研究開発部会で報告いたしますが、他の先生方にも参考になる可能性のあることについて、以下に報告します（興味のある方は、詳細について竹内鉄までお問い合わせください）。

②研究授業について

- ◇公立の小中学校では、研究授業や事後協議会を数多く行い、授業改善に取り組んでいます。本校でも、新研究授業や、新たな取り組みを行った際の授業の振り返りにおいて、以下のようなことは参考になるのではないのでしょうか。
- ・**授業を観る観点を事前に話し合っておく**（「観察シート」を作成するのもよい）
 - ・グループ学習などの場合は、**生徒の様子の観察を参観者で分担**しておく
 - ・参観した**授業の成果と課題**、また**自分の授業にどのように活用できるのか**を出し合う
 - ・生徒の書いた**ノートなどを手がかりにして話し合う**（タブレットで写真に撮っておくのもよい）

③各種コンテンツの紹介

- ◇大阪府教育センターWEB ページに以下のようなコンテンツがあります。私もすべてチェックしたわけではありませんが、もしかしたら先生方の授業に活用できるコンテンツがあるかもしれません。良いものがあれば、他の先生方にも紹介してください。

【アクセス方法】

大阪教育センター（<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/>）→「教職員のためのページ」→「教材・資料等」

■**授業づくり・学力向上** ※パスワードの必要なページには、ユーザー名「sensei」/パスワード「2018manabi」（取扱注意）で。

○授業改善：動画で見る府立高校の授業／国語の授業づくりハンドブック／算数・数学教材（ICT コンテンツ）／学習指導ツール／単元確認プリントなど

○英語教育：「英語を話す力」を伸ばすための教材集など

○理科教育：中学校理科授業プラン集／かんたん実験＆動画集など

○道徳教育 ○体力づくり・楽しく体を動かすことができる体操・ダンス など

【感想など】

◇他校の先生との交流は有意義でした

→演習の時間が多く、公立中学の先生方と様々な意見交換ができました。校内研究の主担といっても30歳前後の若い先生も多く、懸命に取り組んでおられるものの、ご苦労も多いようです。

◇授業力向上研修にも積極的に参加しましょう

→夏季を中心に大阪府教育センター主催で各教科の授業力向上研修が実施されます。またご案内いたしますので、お忙しいとは思いますが、参加可能な時期であれば、積極的にご参加ください。「外の空気」を吸うのもよいものですよ。

高1 探究(総合) 授業参観報告

日時	5/1〔火〕2限	学年・組	高1-5/1-1
担当	K・O先生/M・M先生	場所	各HR教室

高1「探究(総合的な探究の時間)」。

今回は第3回目の授業です。

前回は、「初富を日本一有名にするには」という課題に対して、ブレスト(ブレイン・ストーミング)を行いました。

<ブレストの方法>

- ◇5分で1人15枚以上、付箋にアイデアを記す
(文章ではなく単語で記す)
- ◇1人1枚ずつローテーションで付箋を貼っていく
(似た内容の付箋は自分の番でなくても出す)
- ◇付箋を内容によっていくつかのグループに分ける
- ◇グループ同士の関連性を考え、線や矢印でつなぐ

今回は、前回に出たアイデアを整理し、チーム名を決めた上で、

- ・アイデアを説明できるようになる
- ・アイデアの問題点と解決策を考える
- ・アイデアが実現すると、どんないいことが起きるのか
(誰がHappyになるのか)
※「学校が有名になる」以外で

などを話し合い、プレゼンの準備をしました。

3回目ともなれば、活発に意見が出るようになり、教員は何もしなくとも、あるいは一言二言アドバイスするだけで、課題解決に向けて話は進んでいきます。

もちろん発言の多い少ないはありますが、ほぼ全員が意見を出しているのが印象的でした。「初めてのプレゼン」(1・5組は5/15〔火〕)が楽しみです。



最初に本日の活動の説明があります



前回の「ブレスト」の成果です



「口角泡を飛ばす」ような活発な議論も…

【感想等】初めてのプレゼンに向け、生徒たちが生き生きと楽しそうに話し合いをおこなっていました。個人的には、「発想力」「行動力」「コミュニケーション力」が「生きる力」の重要な3要素と考えていますが、そういった力を順調に身に付けてくれているのが感じられます。

前回案内の通り、土1限(4・6組)・2限(2・3組)、火2限(1・5組)・5限(7・8・9組)に行われていますので、ぜひご参観ください。

[T. T]

☆今回の授業を約3分に編集したダイジェスト動画(活発な議論の様子をご覧いただけます!)を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください!

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「O5O1 高1-1・5 探究」

中2 オンライン英会話(国際理解) 授業参観報告

日時	5/8〔火〕2限	学年・組	中2-3
担当	K先生	場所	情報教室

今年度から中2・中3で始まったオンライン英会話。生徒たちは、ネイティブの先生との授業と隔週で受講しています。

最初の20分ほどで、準備と予習を行い、後半の30分で会話をするといい形式です。

2回目ということもあり、10分ほどで全員の準備が整い、今日の会話についてのK先生からのワンポイントレッスンを聞いたりして開始を待ちます。中には、相手の先生にあらかじめ文章でメッセージを送っている生徒もいました。

会話が始めると、ニコニコしながら「談笑」しているように見える生徒もいて、思ったより会話がはずんでいる感じがしました。

担当のK先生に授業についてお伺いしました。

Q. 他の授業では得られない良さは何ですか？

A. 絶対に話さなければならない状況に置かれることで、各自が自分の中で最大限のパフォーマンスを発揮しようと努めることです。

Q. 逆に課題となるのはどんなことですか？

A. 先生（対話者）も中学生のレベルに合わせて、できるだけ答えやすいように話して下さるのですが、中2の一部の生徒にとっては、少しハードルが高いところもあります。

Q. それに対しての対策はありますか？

A. 向こうからももらったテキストを事前に配布しておき、生徒たちに会話の内容をある程度予習してくるよう指示しています。



2回目なので“Help!”も減ってきました。



右上が先生、中央がテキストの画像です



会話中の30分は、中身の濃い時間です

【感想等】新しい大学入試の対策として Speaking 力の向上が不可欠であることは言うまでもありませんが、それにとどまらず、中3での海外研修をより有意義なものにするためにも効果のある取り組みだと感じました。また、この経験が、高校・大学やその後の英語での討論や発表の力につながっていくと考えると夢は広がります。そして、相手の先生に欧米系以外の人がいることも、グローバルな視野を持つためには、かえって良いのではないかと思います。火曜1・2限が中2、木曜1・2限が中3ですので、英語科以外の先生方にも一度参観されることをお勧めします。〔T.T〕

☆今回の授業を1分半に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「180508 中2-3 英会話」

中3 クエスト(総合) 授業参観報告

日時	5/9〔水〕6限	学年・組	中3
担当	中3学年団	場所	各HR教室

今回は、中3が総合学習で取り組んでいる「クエスト」の報告です。

「クエスト」とは、チームみんなで、実在する企業を研究し、企業から出される課題にアイデアを出し合って答えを導き出し、プレゼンを行うというものです。本校でも2年前から取り組みを始め、2年続けて全国大会で発表するチームを輩出しています。

今年の中3は、総合やHRの時間の多く（1学期では19回）を使って、これに取り組んでいて、今回は8回目の授業にあたる「課題報告」です。

各HRにおいて、4～5名のグループが順番に前に出て発表します。発表時間は約3分。

発表内容は、

- ・チーム名の由来
- ・担当する企業の紹介（ユニークな取り組みなど）
- ・調べてみての感想などです。

発表後、クラスみんながそれに対して評価をします。評価は、各個人でつけていたクラスと、班で話し合っつけていたクラスがありました。

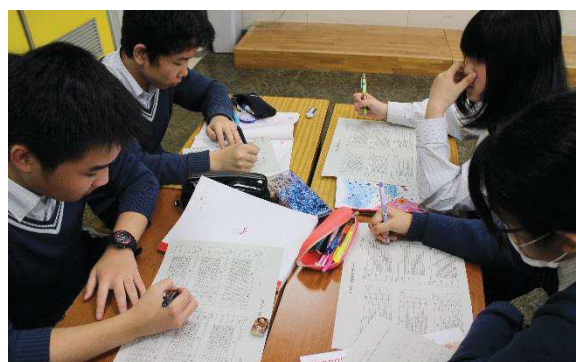
評価ポイントは、

- ・内 容；分かりやすいか／興味がわいたか／企業に関心をもったか
- ・話し方；大きさ／スピード／メリハリ／間の取り方などです。

まだまだ導入段階での発表ではありますが、何も見ずに身振り手振りを交えながら一生懸命話している生徒がいたことなどが印象的でした。



発表の経験はあっても少し緊張します



1グループごとに評価をつけていきます



発表する方も聞く方も真剣です

【感想等】現在の高1（一貫生）が中学生だった時、学年主任のK先生を中心に「新しい初芝富田林モデル」として、「進路学習の体系化／答えのない問いを考える機会をつくる／困難を与え、考えたり、気づいたりする機会をつくる／いろいろな世界を見る」といった4点が提示され、3年間の体系的な取り組みの一環として中2で採用したのが「クエスト」でした。今年度の高1「探究」での一貫生の様子を見ると、3年間の成果は十分に表れていると感じます。32期中3の生徒たちも「新しい初富モデル」の中で今後益々の成長が期待できます。 [T. T]

☆今回の授業を約3分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「180509 中3 クエスト」

高1探究(総合) 授業参観報告

日時	5/15〔火〕2限	学年・組	高1-5/1-1
担当	K・O先生/M・M先生	場所	各HR教室

高1「探究(総合的な探究の時間)」。

今回は第5回目の授業です。

今回は、「初富を日本一有名にするには」という課題に対して、初めてのプレゼンを行います。全グループの発表を2回にわけて行うので、今回はその前半です。

＜プレゼンの方法＞

◇時間は1グループ3分。作成したプレゼンシート

①～③にしたがって発表。

①アイデアと内容説明

②問題点と解決方法

③実現するとどんないいことが起こるか

◇見た人が個人で評価し、それをもとに各グループで
評価表作成(評価項目①～④とコメント)

①声 ②目線・態度 ③内容 ④アイデア

◇質疑応答

＜プレゼンの様子＞

アイデアとしては、

- ・「AI(ロボット)が授業をする」
- ・「スクールアイドルを結成して売り出す」
- ・「山を切り開いてレジャーランドを併設する」など、ユニークな発想が次々と飛び出していました。

伝える側には、発表者どうしの掛け合いを取り入れるなどの工夫が見られ、聞く側も評価する観点を意識しながら聞き、グループで討議しながらコメントを作成していました。



発表の順番をくじ引きで決めます



アイデアは「AIによる授業を取り入れる」



発表を受けて各グループで評価表を作成

【感想等】このプレゼンまでが探究のファーストステップであり、生徒たちは、ここで企画のまとめ方、プレゼンでの話し方、聞き方の基礎を学びました。次の段階では、自分たちで課題を見つけ、その解決に取り組んでいくことになるので、ハードルが一段上がります。しかし、「初めてのプレゼン」での予想以上にアクティブな生徒たちの様子を見てみると、今後の展開がますます楽しみになってきます。

[T. T]

☆今回の授業を約3分に編集したダイジェスト動画を下記にアップしましたので、ぜひご覧ください！

子どもたちのユーモラスなアイデアと表情を見ているだけで幸せな気分になれることまちがいなしです！

「全体」→「研究授業・公開授業」→「H30」→「授業動画」→「180515 高1-1・5 探究」

『教育・入試改革に向けた これからの学校教育を考える会』に行ってきました 研修（出張）報告

研修名	教育・入試改革に向けた これからの学校教育を考える会 ～PDCA サイクルを通じて学校指導力を高め、生徒の可能性を引き出す～			主催	ベネッセ	
日時	5/26〔土〕	会場	ホテルマイステイズ新大阪		報告者	T.T
内容	①変わる入試・変わる高校教育 ②環境変化に応じた取り組み実践例 ③到達目標の設定とPDCA サイクルの構築					

【報告】 以下、印象に残った点を箇条書きで列挙します。

①変わる入試・変わる高校教育

◇ベネッセの全国の高校 1,100 校へのアンケートにおける 2017→2018 の変化

- ・ 取り組み状況で最も伸びたのが「**指導のPDCA サイクルの構築**」（15.1%→31.8%）
- ・ 最も課題感が増したのは「**生徒の定性的な情報、多様な活動履歴の蓄積（ポートフォリオの活用）**」（60.8%→86.9%）

◇近年の入試動向

- ・ 私大の入学定員超過率の厳格化で 18 年度入試では前期だけでなく**後期でも合格者数が激減**（前期での歩留まり率が良かった）
- ・ 厳格化で進学希望者全員がセンター方式の受験を検討→併願先や入試方式検討の重要性が増す

◇「大学入学共通テスト」について

- ・ **実施大綱の公表は 19 年度**の予定なので、現高 1 は幅を持って指導していくことが必要
- ・ 試行テストは、新タイプ問題に関するデータの収集を重視しており、それを踏まえて問題構成を決定するので、まだ**大きく変わる可能性あり**
→平均得点率は 5 割前後を目標に／記述問題の難易設定や正答条件は再検討／素点以外の成績提供方法検討（段階別表示と素点の併記）など
- ・ 国数英に関する資料（スライド）は、各教科主任に渡しておきますので共有をお願いします（すでにご存知のことも多いと思いますが）

◇現高 1 進研模試からの記述力対応

- ・ 解答解説に「**記述力チェックポイント**」掲載
- ・ 答案用紙に記述問題の「**採点ポイント別結果**」を表示して返却（別に**採点ポイントの説明も提示**）

◇「英語4技能検定試験」への対応

- ・国立大学では、共通テストと外部試験双方の結果を用いることが必須（東大以外？）
→活用方法は、**出願資格・加点・またはその組み合わせ**
- ・受検する試験の選定と対策が高2段階で必要（**3年春までに求められる力に到達**）

◇「多面的・総合的評価入試」の拡大

- ・「国立大の将来ビジョンに関するアクションプラン」では、2021年に**推薦・AO**（学校推薦型・総合型）の比率30%が目標だが現状17%なので、**今後急速に拡大していく可能性あり**
- ・**すべての入試**（一般／総合型／学校推薦型）で**学力の3要素**（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）が**求められる**
→一般入試でも調査書や志願者記載の資料活用／推薦・AOでも何らかの学力評価基準を活用
- ・**調査書・提出書類の改善**
→調査書は「指導上参考となる諸事項」の記載欄拡充、電子化検討（**eポートフォリオの活用**など）

◇高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」について

- ・文科省の委託事業の一つで、大学入試に活用できる仕組みを目指し構築中のポータルサイト
- ・生徒が主体性等に関わる諸活動を記録し、教員が閲覧できるので、**指導方法の見直しや調査書の作成などに活用**できる
- ・インターネット出願の際に「JAPAN e-Portfolio」のデータと連携して出願可能
- ・入試での活用イメージとしては、**ボーダーライン上の志願者を e-Portfolio から抽出した活動記録、調査書、志望理由書から人物評価を行う**ことなどが考えられる

②環境変化に応じた取り組み実践例

◇茨城県私立K高校；“文の極論”を把握させる（国語）

- ・“極論”（文章の最小限の骨組み）を抜き出し、グループごとに空欄補充の作問をさせる
→解答も作成させ、**根拠を明らかにさせる**
- ・定期テストでは、解答だけでなく「**解答の根拠**」を**答えさせる**問題を出題する
→返却時、良くできている解答と惜しい解答を選び配布、何が良いか（足りないか）考えさせる

◇北海道S高校；育てたい生徒像を意識した目標設定と検証（総合など）

- ・学校教育目標を落とし込んだループリック（学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したもの）の達成状況を生徒に自己評価、検証する

◇宮崎県立I高校；教科、探究活動で「問を立てる」力を育む

- ・校外へ足を運び、長いときは課題設定に9ヶ月もかけることも。**生徒の「なぜ」を大切に**（探究）
→探究活動の例…焼酎造りを科学的観点からみる／市の観光資源を再考する／地域からつなぐ国際協力
- ・**生徒が先生に向けて「なぜ」という形の問題を考える**
→先生が解答できない問題を作ったチームにはポイントが与えられる
- ・地域貢献活動（インターンシップ）の振り返りで**モチベーションの折れ線グラフ**を記入させている
→自分がどんなことでモチベーションが変わるのかを知ることによって自己理解が深まる

【裏へ】

◇群馬県立Y高校；1タームの前に「目標設定」、終了後に「振り返り・発表」をする
→年度末には、**1年の活動の「総まとめ」を行い、新1年生に発表する**

◇マナビジョンポートフォリオの紹介

- ・日常の記録；授業や部活など日常の気づきや感じたことを記録
- ・ベネッセのテスト振り返りの記録；スタディーサポート、進研模試など
- ・進路探究の記録；文理選択やオープンキャンパス訪問履歴など
- ・成果の記録；学校内外の活動成果を記録→大学入試でも利用可能

③到達目標の設定とPDCAサイクルの構築

◇学カスタンダード

- ・生徒の学力の定着と伸長を図るために、学習指導要領の内容・項目ごとに具体的な**学習目標を示したもの**
→指導のPDCAサイクルを確立することで学校として目線をそろえて指導に取り組める

◇学習スタンダード

- ・生徒の学力の定着と伸長を図るために、具体的な**学習習慣・学習行動の目標を示したもの**

☆この項目については、時間の都合で詳しい説明はなかったのですが、スタディーサポートや進研模試の結果を上記スタンダードの確立やPDCAサイクルに活用していく方法などについては、研究開発部までお問い合わせください。

【感想など】

◇教育・入試改革への対応は“待ったなし”

今更言うまでもないことですが、教育の世界は、現在、「戦後最大の転換点」を迎えているのだらうと思います。教育・入試改革について学べば学ぶほど、従来あまり使用されてこなかった用語や方法論が次々登場し、益々その思いを強くします。とにかく、学年や教科・分掌の枠を越えて情報を共有し、そして議論をしましょう。よいアイデアも、協力体制もすべてはそこから生まれます。

高2英語 10 分テスト(Web テスト) 報告

日時	毎週〔木〕朝	学年・組	高2文系各クラス
担当	T 先生・各監督者	場所	各 HR 教室

今回は高2文系で週1回行われている **Classi の Web テスト** を使った **英語 10 分テスト** の報告です。

<生徒の動き>

- ①Classi にログインし、開始の合図で Web テストのその日の日付のテストをクリックし、解答開始。問題は20問で、それぞれ4つの選択肢から正解を選ぶ方式（記述式や正誤問題も設定可能）。
- ②解答が終了した生徒から Web 上で提出し、即座に結果を確認。解答開始から10分が経過すると、自動的に提出され、終了。

<監督教員の動き>

- ①Sky Menu で担当クラスの「授業開始」をタップし、クラスの生徒の画面をモニターして、各自の取り組み状況を把握。
- ②タブレットが手元にない生徒には、同じ内容のペーパーテスト（問題作成時に印刷可能）を配布。

担当の T 先生にお伺いしました。

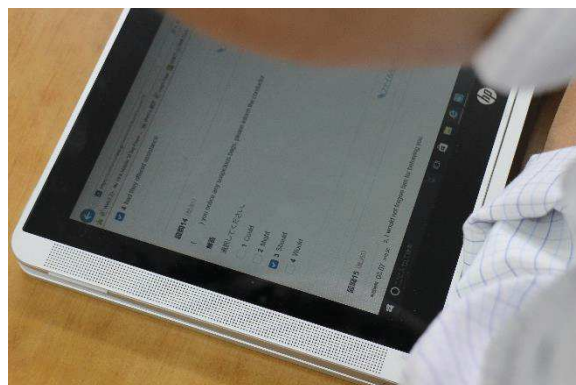
Q. このテストの長所は？

A. 教員側にとっては、採点、入力の手間を省けるというだけでなく、平均点や各問題の正答率が瞬時に分かるので、弱点を把握して今後の指導の参考にすることができます。

また、生徒にとっても、直後に間違いに気づくことができる上に、正答率と比べることなどで、自分の苦手分野を把握できます。さらに、テストは Classi に残っているので、いつでも再チャレンジすることができます。



他の席から見えないように画面をできるだけ倒して解答するように指示しています



画面をタップすることで解答します



教員側の画面（一部加工）中央は欠席者

【感想等】私自身も試験監督の一人としてこのテストに関わっています。4月の最初の1回だけは、10分が経過していないのに解答ができなくなるといったトラブルがありましたが、すぐに担当の先生を中心に対策をとっていただき、2回目からは、とてもスムーズに実施できています。授業中の小テストとして取り入れている先生もあり、私も先日自分の授業（世界史）でトライしてみました。これなら採点の手間もなく、生徒たちの日々の頑張りを平常点として成績に加味することもできるので、とても有用です。

[T. T]

『中等教育における学校改革研究会』に行ってきました 研修（出張）報告

研修名	中等教育における学校改革研究会 ～学校指導要領改訂を見据えたカリキュラム・デザイン～			主催	ベネッセ	
日時	6/9〔土〕	会場	新梅田研修センター		報告者	T.T
内容	①ベネッセからの情報提供 ②基調講演；高槻中学校・高等学校 教頭 M 先生 ③ベネッセからの案内					

【報告】 以下、印象に残った点を箇条書きで列挙します。

☆もらってきた資料は、下記フォルダにアップしておきますので、ご覧ください
 →分掌／研究開発部／外部研修／180609 ベネッセ学校改革研究会

①ベネッセからの情報提供

◇2019 年度以降の中入生は英語の学習履歴が毎年異なる

- ・今年度（2018 年度）の中 1 まで；全員が小 5・6 で「外国語活動」を履修。教科「英語」は未実施
 - ・2019 年度中 1；3 割が小 5 で「外国語活動」、小 6 で教科「英語」／7 割が小 5・6 で「外国語活動」
 - ・2020 年度中 1；3 割が小 5・6 で教科「英語」／7 割が小 5・6 で「外国語活動」
 - ・2021 年度中 1；3 割が小 4 で「外国語活動」、小 5・6 で教科「英語」／7 割が小 5 で「外国語活動」、小 6 で教科「英語」
 - ・2022 年度中 1；3 割が小 3・4 で「外国語活動」、小 5・6 で教科「英語」／7 割が小 5・6 で教科「英語」
- ※3 割；先行実施の小学校の割合，7 割；先行実施を行わない小学校の割合

◇成績が上昇した生徒が重視している学習行動

- ・授業；自分なりに調べている
- ・家庭学習；あきらめずにやりぬく
- ・模試；なぜ間違えたのかを自問自答する
- ・学校行事；行事からも学びを得ている
- ・振り返りの習慣；メタ認知できている

※メタ認知；自身の認知的な働き（思考や学習など）を一段上から理解したりコントロールしたりする働きのこと

◇振り返りの質の段階

- ・レベル 1〔実践〕；学習の事実・感想にとどまった振り返り
- ・レベル 2〔内省〕；学習の事実・感想と内省（浅い内省）
- ・レベル 3〔気づき〕；事実・内省を踏まえての具体的な行動計画・目標（次に何をするかわかる）
- ・レベル 4〔教訓〕；事実・内省を踏まえての一般化・理論化・教訓化（自分なりのやり方が見つかる）
- ・レベル 5〔計画〕；一般化・理論化・教訓化したことを実践（他にも転用できる）

＜振り返りの質を高める上での課題と解決策＞

- ①内省への壁→「振り返りの機会」を作る
- ②気づきへの壁→他者視点を入れ（面談・相互評価等），本人が気づいていない変容に気づかせる
- ③教訓への壁→「学びの総括」を節目に入れる

②基調講演:「教育は変わるのか? 変えるのか?」－高槻中高のビジョンとアクション－

～AL, カリマネ, 多面的評価, ICT, e-Portfolio の実践を交えて～ 高槻中・高 教頭 M 先生

◇授業デザインのポイント

- ・3つのポイントの1つに、「授業に『本質的な問い』・『核となる課題』を用意する」というのがあり、とても印象に残りました。

☆「本質的問い」:「永続的理解」(様々な場面で役立つ内容, 将来的に覚えていてほしい理解, 教科の中核部分)に対応するもので, 一つの答えではなく, 思考を刺激し(対話を引きおこし), 高次の思考を要求し, 転移可能で, さらなる問いを引きおこし, 証明や正当化を要し, 何度も繰り返し問われるような問い。

→歴史を教えているものとしては, 歴史の法則性や, 歴史的な事柄が現代にどのような影響を与えているか, そして, そこから歴史を学ぶことの意義, 人生の岐路に立ったときに歴史を学んでいたことがどのように役に立つかといったことまで想起しました。

◇人的・物的・外部の資源の活用

→カリキュラムマネジメントの中の話では, 学びを高める「高大連携」, 学びを深める「企業連携」, 学びを拓く「海外連携」といった外部との連携の話が印象的でした。

◇学修インタビュー

- ・三者面談の代わりに, 生徒が学んだことや努力したこと, 達成度, 成果, 目標などについてプレゼンテーションを行う

→ループリックを使って自己評価し, 振り返りや目標の設定を行うなど, 効果的な取り組みであると感じました。もちろん, 保護者からの質問や担任からのアドバイスもあります。

◇学修委員の活動

- ・評価の3つの側面のうち, 「学びとしての評価(評価することが学びになる)」を実践するために設置。自由研究の相互評価などを行う

→評価することで「いい自由研究とは何か」→「次に自由研究をする時にどうすればいいか」とつなげていきます。また, 公開授業でも生徒の学習活動の良いところなどを評価します。

◇ICT利活用教育

- ・Classi (e-Portfolio) の積極活用
; 行事ごとの振り返り/一年の振り返り/Web テスト/模試結果/日々の学習記録 など

③ベネッセからの案内

◇中高一貫校への教材・サービス

- ・学びの変革; 学力推移調査/中学総合学力調査/スタディーサポート/進研模試/GPS-Academic
- ・英語4技能の育成; GTEC/ベルリッツ/Online Speaking Training
- ・ポートフォリオの効果的な活用; Classi のポートフォリオ

→共有フォルダにアップした中に, これらについての資料もありますので, ご覧ください。

また, この研修にはK先生も参加されてますので, 話を聞きに行かれると, 別の視点からの情報も得られるかと思います。

以上